

## 背景と目的

・パリ協定の下、各国が削減目標(NDC)を定め、温室効果ガスの排出削減等に取り組む必要があります。そのような中、アジア・太平洋地域の多くの国々は、NDCに農業分野の取組を含めています。

・このプロジェクトでは、農地土壌による炭素貯留をはじめとする我が国の温室効果ガス排出削減・吸収に係る技術及び経験をアジア・太平洋地域に共有します。また、その効果の科学的な算定・評価を実施するための支援を行うことで、域内における農業分野の気候変動緩和の取組を促進します。

## 主な活動内容

・アジア・太平洋地域において、土壌炭素貯留及び水田・畜産分野由来の温室効果ガス削減・吸収技術等に関する国際ワークショップを計5回開催しました。我が国からは、農林水産省及び農研機構等からの参加者が登壇し、各国からの参加者との間で取組状況を共有するとともに技術の実装に向けた議論に貢献しました。

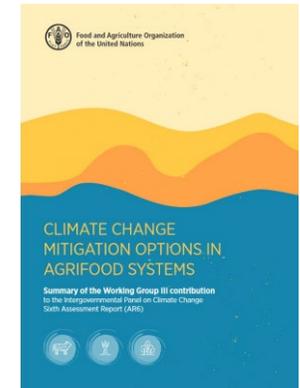
・「気候変動に対応する農業分野の解決策」と題する全3回のウェビナーを実施し、農業分野の緩和技術に関する最新の知見を発信しました。

・2022年に公表された「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書(緩和分野)」に含まれる農業分野の記述に関して、FAO専門家による技術的知見・経験を加えてさらなる深掘りをしたレポートを作成しました。

## 事業成果

・5回の国際ワークショップを通じて、土壌炭素貯留及び水田・畜産分野由来の温室効果ガス削減・吸収技術等、我が国の取組をアジア・太平洋地域に発信しました。また、各国の参加者との間で緩和技術の実装に向けた経験及び課題を共有し、気候変動と農業に関する今後の域内協力に向けた議論を行いました。

・IPCC報告書に係るレポートにおいて、他分野と比較した農業分野の温室効果ガス排出の特殊性及び緩和技術の実装に当たっての制約等の技術的知見を取りまとめることで、科学的知見に基づく政策決定や気候変動関連の国際交渉の基盤を提供しました。



IPCC第6次評価報告書に関するレポート



畜産分野の温室効果ガス削減に関するワークショップ  
(2022年、バンコク)

Source: Food and Agriculture Organization of the United Nations. Reproduced with permission.



水田メタン削減に関するワークショップ(2022年)  
青山農林水産技術会議事務局長(当時)による冒頭挨拶

【お問合せ先】大臣官房環境バイオマス政策課

03-3503-5303